

## 平成30年度第5回米沢ブランド戦略会議 会議録

1 日 時 平成30年10月17日(水) 10:00~12:00

2 場 所 米沢市役所3階庁議室

3 出席委員

戦略会議：宮坂宏副会長、仁藤重美委員、伊藤浩志委員、大和田浩子委員、佐藤英司委員、松本昭弘委員、金田江里子委員(委任状出席：坂川好則委員、遠藤正紀委員)

プロジェクト：吉澤彰浩さん、本多作之助さん、安部里美さん、安部宏海さん、須藤広報広聴主査、小野田工業労政主査、斎藤農林課主任

博報堂：宗形英作さん、榎本宏さん、石川美子さん

4 事務局：地方創生参事、高橋農林課長、伊藤米沢ブランド推進室長、佐藤米沢ブランド推進室主任

5 会議録(要点のみ)

(1) 開会

(2) 議事

(副会長)

・議事第1番、各種制作物について

※地方創生参事、①ブランドブック ②ブランドムービー ③ポスター ④新聞広告 ⑤Web サイト ⑥周知ツール 等について説明。

(博報堂)

・いくつか捕捉させていただく。ポスター、新聞広告、ブランドブックに使用されている「米沢の未来は、米沢を愛するものにしかつukれない」というコピーは、一般市民に共感を持っていただくことと、市民一人一人に自分事化していただくことが狙い。

・新聞広告は、米沢ブランディングプロジェクトが始まったことを明快に告知し、ブランドの旗印であるロゴを焼き付けることを狙いとしたデザイン。

・ポスターは新聞と同じコンセプトに加え、市民の共感を得て自分事化を図る狙い。どちらか1つでも使用可能であり、両方組み合わせることで1+1=3になるように、2つのデザインを提案。

・「何故このブランドの活動なのか」「何を目指したか」をわかっいただくことが、ブランドブックの一番の役割。抵抗感なく開き、リラックスして読んでいただいた結果として、ブランドの趣旨を理解し、自分との関わりを感じていただけるデザインや言葉遣いになっている。自分事として捉えるモチベーションの種を蒔くために、難しい説明を省く。

(博報堂)

・ムービーの完成度は9割程度。今後、赤ちゃんの表情や動きの精度を上げる。

・過去と現在と未来をどう繋げるかが動画の狙い。10、20年後、この赤ちゃんが米沢で暮らしていくためにどうすればいいか。過去、現在、未来を繋ぐ1つの運動体として、米沢の人々が自分事として

捉えて盛り上げていく。

(地方創生参事)

・様々な TEAM NEXT YONEZAWA の登録者あるいは米沢の産品やサービス等を共有できるテレビ番組を、現在考え中。

・議事第2番、米沢品質向上運動について。

※伊藤米沢ブランド推進室長、資料1について説明。

(地方創生参事)

・米沢品質向上運動の拡大を図る意味で、市民向けのわかりやすい解説書を用意している。

・市民それぞれが、米沢品質向上運動の振り返りができるワークツール。

・TEAM NEXT YONEZAWA への参加を促し、全体のブランディングについて共有するためのワークショップを行い、参加者の拡大を図る。

・議事第3番、ブランド宣言イベントについて。

※佐藤米沢ブランド推進室主任、資料2について説明。

(地方創生参事)

・制作物については、現段階で直せるものと直せないものがあるので、ある程度は現在の案でご理解いただきたい。

・品質向上運動については、今後細かい部分を詰めていく。

(副会長)

・ブランドブックから新聞広告、ムービーは変更不可。Web サイトについては、今後も変更可能なので、色々なご意見を頂戴したい。

・議事第1～第3まで分割し、大和田委員から一人5分ほどでご意見、ご質問を頂戴する。

(委員)

・制作物から受ける印象は明るくて良い。

・TEAM NEXT YONEZAWA への登録申請は、Web サイトからのみ？

(米沢ブランド推進室長)

・基本は Web サイトからだが、紙での申請も用意する。

(委員)

・周知ツールについて、今後文房具などにもロゴマークを展開するのか？

(米沢ブランド推進室長)

- ・TEAM NEXT YONEZAWA のつかないマークに関しては、米沢市が製作するものとして使用する。

(地方創生参事)

- ・現段階では提示しているもののみだが、今後検討するかもしれない。市費で作らなくても、TEAM NEXT YONEZAWA で機運が高まって作ってもいいのではないかと思う。

(委員)

- ・ムービー内の「わかれたり」という表現は如何なものか。

(博報堂)

- ・人生の山や谷を表現している。

(委員)

- ・電車で流れる他市町村の PV と比べて時間が長い。色々な物を足し算しすぎて、見た後に何も残らないのではないか？ 県外の人が観たときに、米沢に行きたいと思えるような、インパクトのあるダイジェスト版が欲しい。
- ・赤ちゃんが無機質。一言でいいので、赤ちゃんの生の声を入れてほしい。
- ・TEAM NEXT YONEZAWA の「米沢市に住所を有する者」という参加資格だと閉鎖的では？ 今後活動が広まって、市外の人が参加したくてもできなくなる。川崎市はオープン。

(博報堂)

- ・今回のムービーはインナーブランディングを目的にしている。電車で見られるのはアウター向けのもの。米沢の観光誘致を目的にするのであれば別のアプローチになる。様々な視点から多くの市民に参加を呼び掛けるために、それなりの長さが必要となる。現在、6秒の CM などキャッチーなものの制作を進行中。
- ・赤ちゃんの動きはまだ不自然な部分があるので、今後精度を上げていく。赤ちゃんの声を採用すると、逆に幼稚になってしまう。笑い声は挿入できるかもしれない。

(地方創生参事)

- ・観光や誘客を目的とした場合には違う展開になる。次年度に外に向けて発信していくときの、1つの案として考えられる。

(米沢ブランド推進室長)

- ・「米沢市に住所を有する」という参加資格は、代表者が該当していれば良い。TEAM NEXT YONEZAWA のブランドに責任を持ってくれるかどうか重要。企業としての代表者が米沢市在住でなくとも、ブランドとしての責任者が米沢市民、または拠点が米沢にあれば問題はない。

(副会長)

- ・市外、県外に事業所があり、米沢で商業活動している方もいるが、その人たちも弾くのか？

(米沢ブランド推進室長)

- ・基本的に弾く方向。

(委員)

- ・事業内容にもよるのではないかと。まとめて線引きをするのは如何なものか。

(副会長)

- ・柔軟な対応をお願いしたい。

(地方創生参事)

- ・支店等の場合、支店の方が代表者になれば可能だと思っている。
- ・税金で活動しているので、米沢市に責任を持っている方であってほしい。

(副会長)

- ・活動拠点が米沢にあれば、住所は米沢市になる。その支店長等代表者が高畠町の人だった場合は？

(地方創生参事)

- ・法人としての拠点が米沢にあれば構わない。

(P J)

- ・この仕組み自体が市民に浸透し、持続的な運動体になるように考えていかななくてはいけない。
- ・Web サイトについては、作るだけで更新されずに、情報が古いものにならないよう **TEAM NEXT YONEZAWA** への働き掛けも必要。Web ページに米沢市への移住の導線を作るのも1つの方法。
- ・オープンにする米沢に地縁のある人や応援したい人を、地域に繋ぐことができないか？

(米沢ブランド推進室主任)

- ・Web サイトのニュースは、事務局側、公式で発信する情報の項目。ピックアップは、**TEAM NEXT YONEZAWA** の登録者が各々のページを更新したり、情報発信したりする項目で、常時回転しているイメージ。事務局側の一方的な発信ではなく、運動体の登録者が常に発信するようにしたい。
- ・ブラウザ版のサイトだけではなく、タブレット・スマートフォン版についても自動展開する予定。
- ・SNS は Facebook のみ立ち上げ予定。市民調査員などに、責任感を持って発信していただきたい。他の SNS については検討中。

(米沢ブランド室長)

・サポーターには最初市民以外も含まれていたが、一緒に登録していくのが難しい。品質向上運動のサポーター、TEAM NEXT YONEZAWA のサポーターは外部の人でも構わないが、検討の段階だったので掲載されていない。今後そのような人たちが出てくると考えるのであれば、今後考える必要がある。

(副会長)

・地元だけではなく、外部からの評価は大事。

(P J)

・市民による応援やコメントを取り入れたこと、市民調査員として参加できることを組めたのは良かった。

・ツールやムービーに関して、時間の少ない中でプロジェクトメンバーの意見を取り入れていただいて感謝。

・品質向上運動の運動体の考え方に関する「選んで終わり、品質のマークを表示するだけの認証制度ではない」という文章で、「選んで認証制度ではなく、継続的なボトムアップ型の運動体である」などといった表現を入れた方が伝わりやすいと思う。

(米沢ブランド推進室長)

・文章の修正は可能。

(P J)

・KPI において米沢に誇りを持ってない原因は、よく知らないから。知っていれば当事者意識が生まれ、自分がプレイヤーになれる可能性が示される。自分が米沢に寄与できるシステムとして、非常に良いものができた。

・米沢の諸団体で、様々な課題を抱えているところもあるが、TEAM NEXT YONEZAWA がそれぞれの拠り所になることができれば、参加者が増加し、人々の目に触れる機会が多くなる。

・ポスターや新聞広告が、様々な苦節を経て形になったことに非常に満足。

(P J)

・結果として出来上がったものに対して、ステッカーやシールを貼って終わり、ブランド品とするのは一番やりたくなかった。それだと内から見て凄くても、外から見ると安く感じる。結果ではなくプロセスを評価するのが鷹山公の DNA。

・鷹山公が残したのは、お金や仕事ではなく、最終的にはヒトだと思う。鷹山公の DNA、米沢ブランディングを運動として広めていくのが、結果的に地域ブランディングになるのではないか。AWARD を取って終わるのではなく、次世代へ受け継いでいただくために、常に研鑽を忘れないのが米沢品質。

・米沢の人でなければならないという参加資格については、行政側の立場からして、納税者や有権者ベースでなければならない。

(副会長)

- ・一般市民がブランディングと聞くと、企業が利益を上げるための販売戦略や広告戦略だと思う。そうではなく、企業含め米沢市民が充実して生きるための未来づくりだと感じた。
- ・今回のブランディングを盛り上げるにあたって、KPI 調査を Web などでもっとわかりやすく市民に示してほしい。

(P J)

- ・金の卵を作るのではなく、金の卵を産む鶏を作る。市民総参加で米沢の良いものを作っていく。

(委員)

- ・新聞広告のデザインは、わかりやすさはあるがインパクトに欠ける。
- ・ムービーの赤ちゃんがあり得ない動きをするので気持ち悪い。
- ・今回は内側から活発にしようという運動なので、外から応援する人は「チームサポート米沢」など別に分けて登録してもらおう。ふるさと納税と絡めるのも1つの手。
- ・実際にモノやコトを AWARD として申請するとき、例えば館山りんごの場合「ふじ」「紅玉」と品種ごとに申請しなければならないのか？ 「私の作っているりんご」として申請できるのか？

(地方創生参事)

- ・新聞の件は、トライの過程と残された時間の関係も含めて現在のデザインになった。
- ・ムービーの赤ちゃんは細部を調整中。全体のコンセプトに沿った表現、市民全員が一体となって TEAM NEXT YONEZAWA を作っていく部分は、共感していただける内容になっているのではないかと。
- ・Web サイトが、団体の活動に対して市民がコメントする仕組みになっているので、参加型の応援は可能。今後運動を活性化していくときに、サポーターができるかどうかは考慮しておくべき。
- ・AWARD については、例えばあるラーメン屋では醤油を推しているかもしれないし、塩を推しているかもしれない。その場合は、推しているラーメンを登録すればいいのではないかと。今後考える必要がある。

(米沢ブランド推進室長)

- ・TEAM NEXT YONEZAWA の申請内容には、「これから挑戦したい事」「これから創造したい事」がある。市民レベルでも、品質向上運動に貢献している内容であれば登録可能。
- ・細分化については、例えば塩ラーメンと醤油ラーメンでは品質向上運動の内容が異なるかもしれない。その店で何をブランド化したいのかによる。その店の商品の1つが AWARD になったからといって、他の商品全部が AWARD になるわけではない。1つの括りをどこまでにするか考えなくてはいけない。あまり幅広くすると審査が難しくなる。

(委員)

- ・本日出た意見は、全体的を射っていたと思うので、真摯に受け止めてほしい。
- ・マークのレギュレーションの、TEAM NEXT YONEZAWA と AWARD の違いは？ 例えばある会社に米沢品質のマークがつけば、その会社の商品も米沢品質だと思われるのではないかと。もっとレギュレー

ションを精査する必要がある。

- ・当初想定していた、米沢牛や米織などのレジェンドの取り扱いはどうなるのか？

(地方創生参事)

- ・ロゴマークだけだと誤認を受けるが、TEAM NEXT YONEZAWA という運動体の印なので、それが企業のパンフレットに記載されることで受ける誤認はないのではないかと。直接の販促物に貼るのは、モノに貼るのと近いのでアウト。
- ・レジェンドについては、既に地域登録商標など違う認証が行われている。米沢品質向上運動では、今までの絶対値とは別に新しく募り、ゼロベースでのスタートとなる。

(委員)

- ・市民に、如何にこの活動を理解してもらい、参画してもらうかが重要。それを十分満たせる制作物を準備していただけたと思う。方向性が明確になったので、これを11月の宣言イベントで市民に示し、小さな意見にも耳を傾けながら進めてほしい。

(副会長)

- ・制作物は、プロジェクトメンバーの意見が十分反映されたものだと思う。何か意見があれば、Webの方で頂戴したい。

(米沢ブランド推進室主任)

- ・年内12月頃に、第6回戦略会議を開催したい。内容としては、TEAM NEXT YONEZAWA の第1回目の登録認定を決定したいと考えている。それまでに登録の形について示したい。詳しい日程は会長、副会長と相談し、改めて連絡させていただく。